

授業科目名	事業創造入門	担当教員	瓶内 栄作 千賀 喜史 佐藤 善信
必修の区分	必修		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第1クォーター		
講義内容	新規事業の創造に関する基本的な理論を、大企業の新規事業開発、中小企業、ファミリービジネス、ベンチャービジネスにわけ、どのような視点で事業創造がされてきたか、アイデアの着眼点や起業のプロセス、経営戦略に関する理解を深めることを目的とする。日本国内だけではなく、米国や中国の起業スタイルに関しても理解し、多様化する価値観や社会の急速な変化に対応できる俊敏性と持続性を有する起業とはどのようなものか理解を図る。さらに、地域金融機関による財務支援や自治体の産業クラスター形成による地域活性化の取組みなど、事業創造に関する総括的な知識の習得を目的とする。		
到達目標	<p>本学の開学そのものが事業創造である。既成概念にとらわれず、新たな価値創造を起こす役割を認識し、それがどのように周囲に変化をもたらすか、という視点を常に意識しながら事業創造を考え、革新のリーダーとなることを目指す。</p> <p>① 事業創造に必要な基本的スキルを取得できる。</p> <p>② 大企業の新規事業や、M&A による事業拡大など、実業界の現場で発生する基礎知識を取得できる。</p> <p>③ ファミリービジネスの第二創業を支える自治体や地元金融機関による支援インフラを含めた基礎的知識を取得できる。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、授業の全体像と進め方</p> <p>第2回 イノベーションの基礎と但馬における起業テーマ</p> <p>第3回 SDGs の課題とベンチャービジネス</p> <p>第4回 ファミリービジネスの事業承継と第二創業</p> <p>第5回 ケーススタディ① グループ討議</p> <p>第6回 起業の事例研究・日本</p> <p>第7回 起業の事例研究・米国シリコンバレー</p> <p>第8回 起業の事例研究・中国</p> <p>第9回 オープンイノベーションと活用事例</p> <p>第10回 ケーススタディ② グループ討議</p> <p>第11回 ケース①②を通してのグループ発表</p> <p>第12回 発表の講評、到達度確認</p>		
事前・事後学習	ケーススタディを2回実施する(第5回と第10回)。課題は事前に配布するので予習をし、自分ならどうするかという視点で考えをまとめグループ討議に備えること。また、グループ討議では役割分担を考え、時間内に一定の結論をまとめること。		
テキスト	特定の教科書は使用せず、各回プリント教材を配布する。		

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『経営学』小倉昌男、日経 BP、1999 年 ・『ゼロからの挑戦』稲盛和夫、PHP ビジネス新書、2012 年
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ① 各回の講義での発言やクラス貢献度(30%) ② グループ発表(30%) ③ 課題レポート(40%)
履修上の注意 履修要件	日頃からベンチャー企業に関する新聞や雑誌記事に関心を持つようにすること。また、自己表現力、プレゼンのスキルについて意識して考えるようにすること。
実践的教育	経営分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等は講義前後、またメールにて受付する。(講義初回に周知) ・授業の遅刻や早退など出欠自由に関わる連絡は、クラスルームでの個人宛連絡及びメールアドレス宛に事前に連絡すること。リフレクションシートでの上記連絡事項は無効とする。